

八戸市教育長に報告書提出



齋藤信哉教育長（右）に検討報告書を手渡す木村浩哉会長

17日、八戸市庁

公立中学校の部活動を地域団体などに委ねる「地域移行」で、八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会（会長・木村浩哉八戸学院大教授）は17日、齋藤信哉教育長に検討報告書を提出した。2年にわたる検討や学校アンケート、合同部活動などの成果をまとめたほか、今後の検討事項を列挙。市の専門部署設置や合同部活動の継続・拡充などに向

けて「検討が必要」と提言した。

報告書で示した検討事項は▽推進体制の整備、地域クラブ活動の運営主体▽スケジュール▽合同部活動▽会費など9項目。それぞれの中で「地域クラブ活動の在り方、考え方を整理」「教員が関わらない形での合同部活動の実施検証」といった具体的な事項を示した。

市は本年度、休日に複数の中学校の生徒が参加できる合同部活動を試行した。種類は美術・総合文化部か陸上競技部を対象とした2

種類だったが、報告書を受け取った齋藤教育長は「今後、可能な限り他の競技、種目にも拡充したい」と取り組みの発展に前向きな姿勢を見せた。

木村会長は取材に「合同部活動は一定の成功を収めた。来年度は地域主体で実施する形を模索できれば」と強調。「今後は小学校も検討の対象になるだろう。地域移行というより地域共創、地域展開をキーワードにして取り組んでいきたい」と関係者間の連携を重視する考えを示した。

（上條哲洋）